

H25 シカ年度 遺産地域内エゾシカ個体数調整実施結果

1. ルサ - 相泊地区

<概要>

- ・ 羅臼町ルサ川左岸～相泊の約 8 km の範囲内の 3 カ所において囲いわな及び流し猟式 SS によるシカ捕獲を実施。
- ・ **計 208 頭** (オス成獣 44 頭、メス成獣 117 頭、0 歳 47 頭) を捕獲。

<結果> 表 1-2-1、1-2-2

1) ルサ囲いわな (4 年目)

- ・ 自動落下式ゲートを用いた小型囲いわなを新設 (再設置) し、平成 26 年 1 月 22 日～4 月 27 日までの 96 日間実施。
- ・ 14 頭 (うちメス成獣 5 頭 ; 35.7 %) を捕獲。

2) 相泊囲いわな (1 年目)

- ・ 多数のシカが越冬しているにも関わらず、これまで本格的な捕獲が行われていなかったアイドマリ川左岸に小型囲いわなを新設し、平成 26 年 1 月 22 日から 3 月 26 日の 64 日間実施。
- ・ 116 頭 (うちメス成獣 74 頭 ; 63.8 %) を捕獲。

3) 北浜～相泊の流し猟式 SS (3 年目)

- ・ 2013 年 12 月 22 日～2014 年 4 月 27 日の 127 日間 (※餌づけ期間) に流し猟式 SS を 10 回実施。
- ・ 78 頭 (うちメス成獣 38 頭 ; 48.7 %) を捕獲した。

表 1-2-1. H25 シカ年度 ルサ～相泊地区における手法及び場所別エゾシカ捕獲実施状況

	12月	1月	2月	3月	4月
囲いわな ルサ	12/24～ 1/20 施工期間	1/8～餌づけ誘引	1/22～	わな稼働期間 ～4/27	
囲いわな 相泊	1/6～1/20 施工期間	1/8～餌づけ誘引	1/22～	わな稼働期間 ～3/26	
流し猟式SS 北浜～相泊	12/22～餌づけ誘引	1月3回	2月3回	3月1回	4月3回

※流し猟式 SS の灰色部分は、餌付けのみ実施した期間を示している。

表 1-2-2. H25 シカ年度 ルサー相泊地区における手法及び場所別エゾシカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス成獣	メス成獣	0歳	計
囲いわな	ルサ	5	5	4	14
	相泊	14	74	28	116
流し猟式シャープシューティング	北浜～相泊	25	38	15	78
合計		39	112	43	208

<捕獲効率> 図 1-2-1、表 1-2-3

- ・ 1日あたりの最大捕獲頭数は、ルサ囲いわな 3頭（1月30日）、相泊囲いわな 18頭（2月4日）、流し猟式 SS 19頭（4月20日）であった。
- ・ 4シーズン目となるルサ囲いわなは、捕獲数及び捕獲効率ともに過去最低。
- ・ 新設された相泊囲いわなは、ルサ囲いわな 4シーズンの最大捕獲数及び最大捕獲効率をともに上回った。
- ・ 流し猟式シャープシューティングによる捕獲は、過去 5シーズンで最も多い捕獲数となったが、2月中旬から 3月下旬に捕獲数が少なかったことに関連して、捕獲効率は前シーズンに次ぐ値となった。

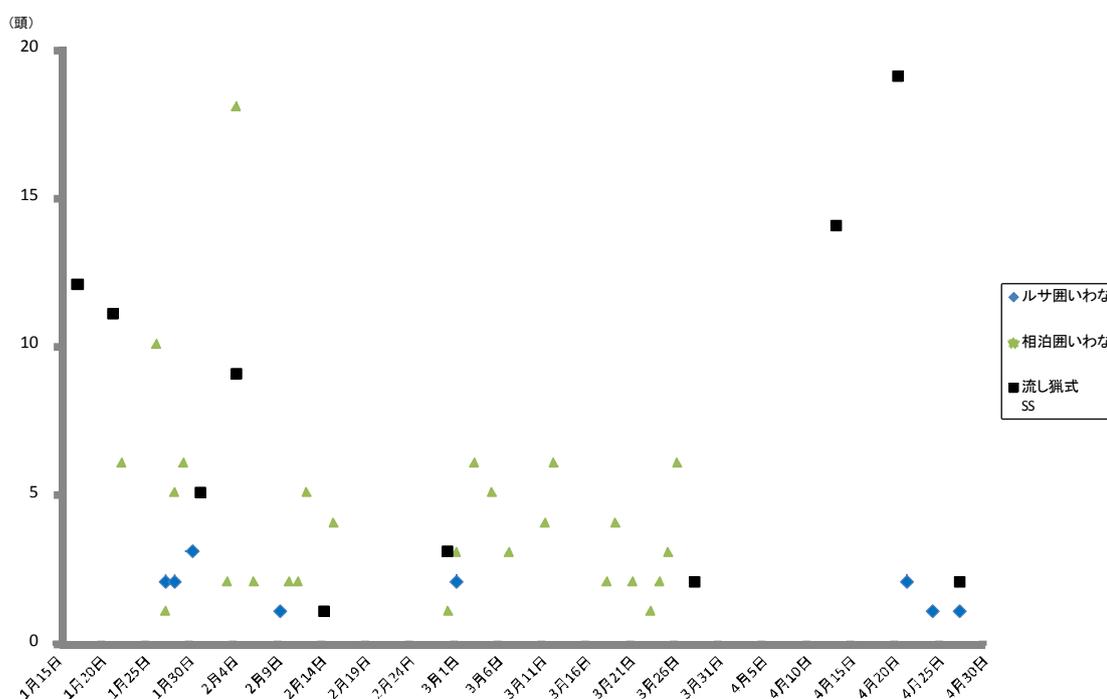


図 1-2-1. ルサー相泊地区における H25 シカ年度の手法及び場所別の各日のエゾシカ捕獲結果

表 1-2-3. ルサー相泊地区における捕獲効率のシカ年度間比較

シカ年度	ルサ囲いわな		相泊囲いわな		ルサー相泊SS		
	搬出頭数*	捕獲効率 ^a	搬出頭数*	捕獲効率 ^a	捕獲頭数	捕獲効率 ^b	捕獲方式
H21					23	0.7	待ち伏せ式
H22	100	1.0			24	0.4	待ち伏せ式
H23	91	1.4			53	3.1	流し猟式
H24	17	0.3			61	4.1	流し猟式
H25	14	0.1	116	1.8	78	3.5	流し猟式
合計	222		116		239		

* 搬出頭数：脱走個体や意図的に再放逐した個体を除く、生態系から除去した頭数

・捕獲効率^a：1わな日（囲いわなの有効稼働日）あたりのシカ搬出頭数（頭／日）

・捕獲効率^b：射手待機1時間あたりのシカ捕獲頭数（頭／時間）

<まとめ>

1) ルサ囲いわな

- ・ H24 シカ年度に捕獲効率が急激に低下したが、今期はさらに低かった。誘引可能なシカの大部分を既に捕獲した可能性や、2～3月の多雪による標高の高い場所へのシカの移動が理由として考えられる。
- ・ 4月に囲いわな付近にヒグマが出没したため、危険性を考慮しての一時閉鎖を余儀なくされたが、再出没はなかった。ヒグマに対する慎重な対応を実施することができれば、春期のシカ捕獲も可能な場所である。
- ・ 捕獲効率の大幅向上は今後も期待できないが、捕獲されているシカの群れは、流し猟式 SS で捕獲されている群れとは異なる可能性が高い。

2) 相泊囲いわな

- ・ 同地点周辺でのシカ捕獲は初めて。そのため、捕獲効率が高かった。
- ・ 12～1月に SS 実施区間（相泊温泉向かいの餌場）に餌づいていた標識個体 1頭が、2月及び3月に各 1回捕獲されたことから、この期間に SS 区間からアイドマリ川周辺へ移動するシカがいる可能性あり。
- ・ 同じ場所で複数年の囲いわな捕獲を実施した場合、捕獲効率が低下していく可能性が高いが、当地区では他に適地がない。H26 シカ年度以降は知床岬寄りのカモイウンベ方向から新たな群れを誘引する必要がある。

3) 流し猟式 SS

- ・ 2～3月には SS 実施区間にいるシカが高標高地等へ移動して少なくなった。12～1月および 4月に SS 実施期間を集中することを検討。
- ・ 4月には漁業活動が活発化するため、漁業者が少ない午後の遅い時間帯（14:30～17:45 など）に捕獲実施時間をずらすことを検討。

2. 幌別 - 岩尾別地区

<概要>

- ・斜里町幌別ー岩尾別地区において、平成 26 年 1～4 月に 4 箇所捕獲を実施。
- ・ **計 207 頭** (オス成獣 35 頭、メス成獣 110 頭、0 歳 62 頭) を捕獲。

<結果> 表 1-2-4、1-2-5

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな (1 年目)

- ・平成 26 年 1 月 30 日～4 月 28 日の 89 日間に 18 回の捕獲作業を実施。
- ・87 頭 (うちメス成獣 56 頭 ; 64.4%) を捕獲。

2) 幌別囲いわな (1 年目)

- ・自動落下式ゲートを用いた小型囲いわなによる捕獲を、平成 26 年 1 月 18 日～3 月 19 日の 61 日間実施。
- ・83 頭 (うちメス成獣 46 頭 ; 52.9%) を捕獲。

3) 岩尾別川河口の囲いわな (2 年目)

- ・自動落下式ゲートを用いた小型囲いわなによる捕獲を、平成 26 年 1 月 21 日～3 月 26 日の 65 日間実施。
- ・35 頭 (うちメス成獣 7 頭 ; 20.0 %) を捕獲。

4) 流し猟式 SS (1 年目)

- ・岩尾別橋から岩尾別川河口までの孵化場施設道路沿線において、2014 年 4 月 2～8 日までの期間に餌付け誘引を 4 回実施し、4 月 8 日に捕獲を実施。
 - ・計 2 頭 (うちメス成獣 1 頭 ; 50.0 %) を捕獲。
- ただし、回収作業中にヒグマがうち 1 頭を持ち去ったため以降とりやめ。
なお、道道沿いでの流し猟式 SS は、仕切柵捕獲を優先するため未実施。

表 1-2-4. H25 シカ年度冬期 幌別 - 岩尾別地区における手法別エゾシカ捕獲実施状況

	12月	1月	2月	3月	4月
仕切柵	12/14～餌付け誘引期間		1/30～4/28 わな稼働期間		
幌別囲いわな	12/18～26 施工期間	12/30～ 餌付け誘引期間	1/18～3/19 わな稼働期間		
岩尾別囲いわな	12/30～ 餌付け誘引期間		1/21～3/26 わな稼働期間		
流し猟式SS (岩尾別川)					4/2～ 餌付け誘 引期間
					4/8 捕獲

表 1-2-5. H25 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区における手法別エゾシカ捕獲状況

捕獲手法	場所	オス成獣	メス成獣	0歳	計
仕切柵	岩尾別地区	14	56	17	87
囲いわな	幌別川河口	11	46	26	83
囲いわな	岩尾別川河口	10	7	18	35
流し猟式SS	岩尾別川河口 孵化場道路	0	1	1	2
合計		35	110	62	207

<捕獲効率> 図 1-2-2

- ・ 1日あたりの最大捕獲数は、幌別囲いわな 9頭、岩尾別囲いわな 7頭、仕切柵が 21頭であった。
- ・ 1回あたりの平均捕獲数は、幌別囲いわな 3.4頭、岩尾別囲いわな 2.7頭、仕切柵が 7.9頭であった。
- ・ ほぼ同様の期間・手法であったが、岩尾別囲いわなの捕獲数は幌別囲いわなの約半数となった。
- ・ 仕切柵では、1～3月の捕獲数は低調だったが、4月には1回あたりの捕獲数が増加し、21頭という日もあった。

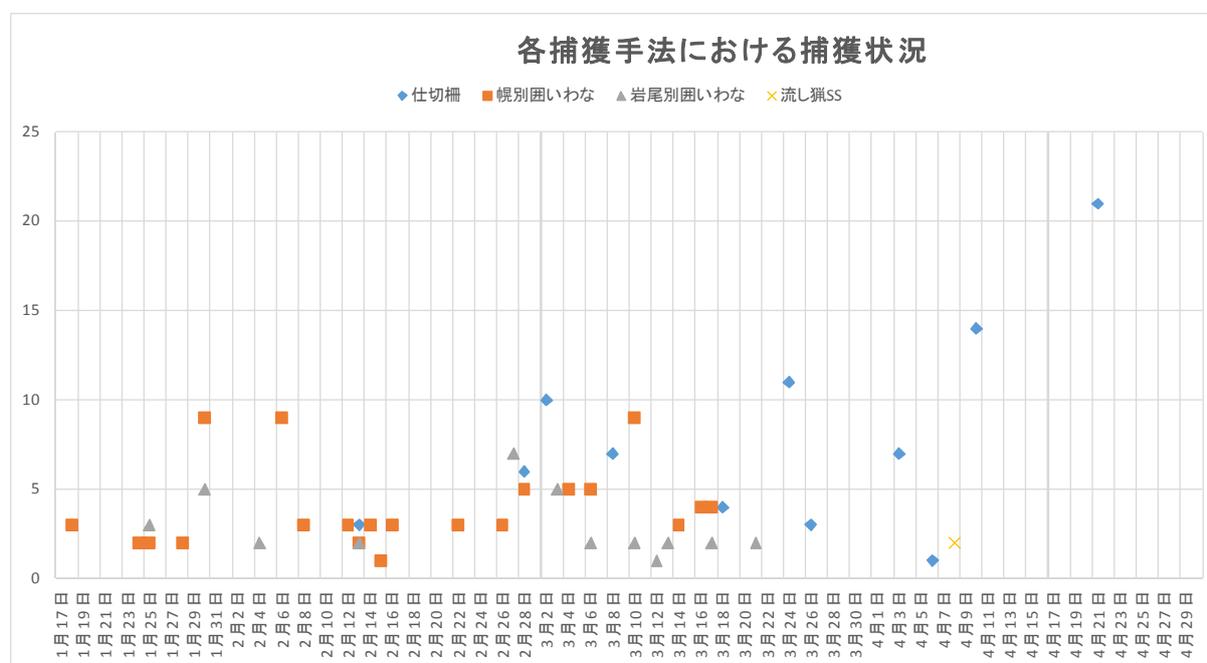


図 1-2-2. H25 シカ年度 幌別 - 岩尾別地区におけるエゾシカ捕獲状況

<まとめ>

1) 仕切柵を用いた大型囲いわな

- ・自動カメラによれば、仕切柵内への同時進入頭数は4月の融雪期に最多。
- ・誘引、捕獲よりも追い込みの労力が大きい。4月以降は雪が固くなるためシカの逃走速度が増し、追い込みが困難。少数捕獲の場合は生体搬出に拘泥せず、死体で搬出した方が効率が良い。
- ・1～3月は乾草等で十分に誘引可能だが、少群が入れ替わりで来るため、一度に大量捕獲は困難。警戒心が強く、ラッパ等による馴化は困難だった。
- ・ヒグマは4月に仕切柵内外で確認された。暗室のシカの臭いに誘引された形跡あり。4月は暗室にシカを留め置くのは危険。

2) 囲いわな

- ・1月の降雪が少なく餌による誘引が効果的に進まなかった。2月中旬以降は例年以上の積雪となったが、雪による道路閉鎖や除雪作業により、わなを稼働できない期間が発生した。
- ・岩尾別囲いわなの捕獲数は、前年(181頭)から著しく減少(前年比19.3%)。また、他の捕獲手法と比較してメス成獣の割合が低い傾向。
- ・幌別囲いわなは捕獲初年度であるが、当初予測より捕獲数が少なかった。
- ・4月以降も両わな周辺には多数のシカが確認されたが、借地と冬眠明けのヒグマの関係で3月末で終了せざるを得なかった。

3) 流し猟式SS

- ・初回捕獲時にヒグマが出没したため、1回、2頭のみでとりやめた。
- ・捕獲終了後の4月15日にも周辺で約90頭のシカが確認されていることから、本手法はヒグマの冬眠期間中であれば有効であると考えられる。
- ・安全な捕獲・回収方法を検討する必要がある。

3. 知床岬地区

<概要>

- ・ H19 シカ年度より 7 シーズン目の捕獲、仕切柵整備から 3 シーズン目。
流氷明けに船舶を使用した日帰り捕獲を 2 回実施。
- ・ **計 9 頭** (オス成獣 2 頭、メス成獣 5 頭、0 歳 2 頭) を捕獲。

<結果等> 表 1-2-6、表 1-2-7、図 1-2-3

- ・ 第 1 回：4 月 30 日に 18 名 (射手 16 名 + 補助 2 名) で実施。
9 頭 (うちメス成獣 2 頭 ; 22.2%) を捕獲。
- ・ 第 2 回：5 月 12 日に 11 名 (射手 9 名 + 補助 2 名) で実施。
捕獲数は 0 頭。
- ・ 捕獲数は過去最少となった。シカの越冬数減少と流氷停滞による実施時期の遅れ、動員射手が少なかったことが関連していると考えられる。
- ・ 7 シーズンで計 726 頭 (うちメス成獣 410 頭) 捕獲、動員射手はのべ 722 人日。
- ・ 同エリアでは 3 月 3 日の航空カウントで 59 頭を確認。4 月 30 日の時点ではすでに越冬期が終わっており、大部分が仕切柵外へ移動していた可能性が高い。
- ・ 捕獲終了時点での仕切柵内における推定生息数は 50 頭 (59 - 9)。
- ・ H26 シカ年度の捕獲方針は、今夏の植生調査をみて検討する。

表 1-2-6. 知床岬におけるエゾシカ捕獲結果 (H19~25 シカ年度)

シカ年度	捕獲頭数	捕獲個体の内訳					巻狩回数	のべ動員射手
		メス成獣	メス0歳	オス成獣	オス0歳	不明		
H19(1年目)	132	89	10	18	15	0	27	203
H20(2年目)	122	76	7	26	13	0	17	174
H21(3年目)	158	86	9	47	12	4	8	143
H22(4年目)	57	20	4	30	3	0	3	96
H23(5年目)	216	133	18	53	11	1	3	53
H24(6年目)	32	4	1	26	1	0	3	28
H25(7年目)	9	2	1	5	1	0	2	25
総計	726	410	50	205	56	5	63	722

※成獣は下顎切歯により、1 歳以上と簡易判定された個体を表す。

表 1-2-7. 知床岬におけるエゾシカ捕獲作業実施状況（平成 19～25 シカ年度）

シカ年度	実施時期	捕獲頭数	回収 個体数	参加者数 ^{※1}			捕獲実施 日数
				射手	補助員	その他	
H19	流水前	33	22	90	5	26	3
	流水後	99	44	113	59	24	12
1年目合計		132	66	203	64	50	15
H20	流水前	50	10	58	19	2	3
	流水後	72	30	116	45	1	6
2年目合計		122	40	174	64	3	9
H21	流水前	57	-	21	6	3	1
	流水中	86	-	85	15	5	4
	流水後	15	55	37	20	1	3
3年目合計		158	55	143	41	9	8
H22	流水中	57	-	90	15	5	4
	流水後	0	10	6	3	1	1
4年目合計		57	10	96	18	6	5
H23	流水中	131	-	14	-	-	1
	流水後	85	112	39	13	-	2
5年目合計		216	112	53	13	0	3
H24	流水中	13	-	14	-	-	1
	流水後	19	14	14	9	-	1
6年目合計		32	14	28	9	0	2
H25	流水後	9	0	25	4	0	2
7年目合計		9	0	25	4	0	2
総計		726	297	722	213	68	44

※1 射手は銃を持って参加した人員、補助員は銃を持たず捕獲に参加した人員を表す。ただし回収実施日には知床財団職員は回収に専念したため補助員とする。その他は番屋管理や視察等で同行した人員を表す。

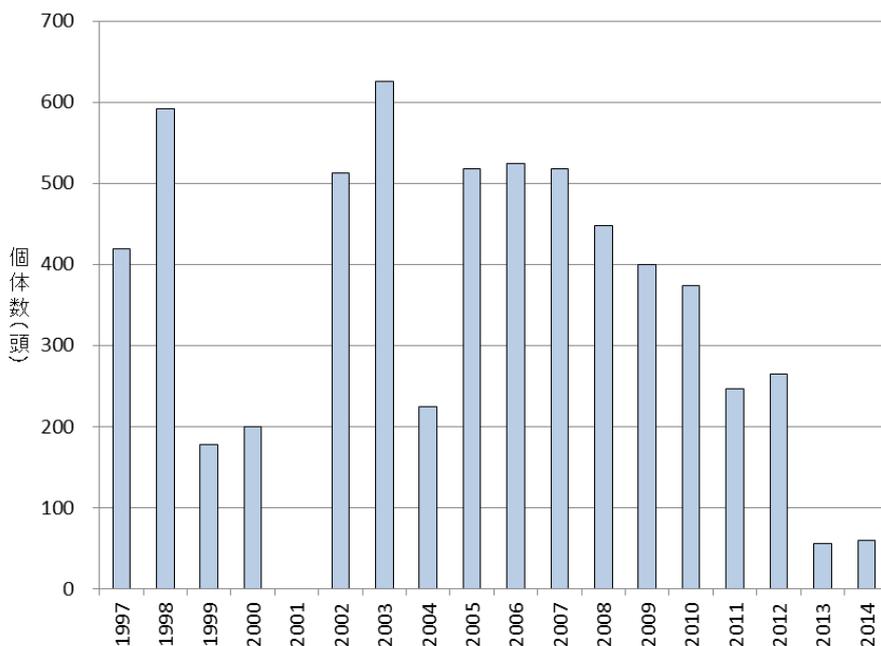


図 1-2-3. 航空カウント調査による知床岬先端部のエゾシカ越冬確認数（各年とも捕獲実施前）の推移 ※平成 13（2001）年は調査なし